

共同研究「新しい国家類型論の試み」 2017年度活動報告

研究代表者 渡 部 純

本研究会では、様々な角度から新しい政治学理論の可能性を、国家類型論という観点から検討してきた。この作業は、新しい理論装置の構想というだけでなく、従来の知の枠組みそれ自体の射程と限界を確認する作業でもあった。研究会メンバーは、この全体テーマの下、ゲストも交えながら、自己の専門分野に即して報告を行ないつつ、研究を進めている。研究会での報告タイトルは以下の通りである。また、メンバー個々の研究成果については、本年報に別途掲載のところを参照されたい。

第1回

日 時：2017年7月1日

報 告 者：酒井 大輔（厚生労働省）

報告タイトル：「新しい政治学の構想—大嶽秀夫の体制論とその方法」

第2回

日 時：2017年11月22日

①報 告 者：畠山 弘文（法学部教授）

報告タイトル：「社会科学の三つの過ち」

②報 告 者：毛桂榮（法学部教授）

報告タイトル：「公務員制度と中国政治」

第3回

日 時：2018年1月30日

報 告 者：富田 晃正（法学部助教）

報告タイトル：「溶解する国家アメリカの政治と政治学」

第4回

日 時：2018年2月24日

①報 告 者：鄒 東升（西南政法大学教授。法科研研究員）

報告タイトル：「衝突と調整：中国の家庭政策の改革」

②報 告 者：金 瑩（西南政法大学、法科研研究員）

報告タイトル：「公共サービスの均等化理念における公共文化サービスモデルの探索」

共同研究：新しい国家類型論の試み

第5回

日 時：2018年3月15日

報 告 者：渡部 純（法学部教授）

報告タイトル：「戦後民主主義者の国家観」